

新型コロナウイルスの変異部位検出用研究試薬を本日（6月16日）販売開始 ～10種の変異部位を同時に検出し、疫学研究に貢献～

デンカ株式会社（本社：東京都中央区、代表取締役社長：今井 俊夫）は、東邦大学医学部と共同で検証実験を進めてきた新型コロナウイルスの変異遺伝子（部位）同時検出システムに使用する検出用研究試薬「IntelliPlex™ SARS-CoV-2 Variant Analysis Kit」の販売を本日（6月16日）から測定機関向けに開始いたします。本件による2021年度当社連結業績への影響は精査中であり、開示すべき事項が生じた場合は速やかにお知らせいたします。

本試薬は、当社が株式の33.4%を保有し業務提携をしているPlexBio Co., Ltd.（本社：台湾台北市、CEO：Dr. Dean Tsao（ディーン・ツァオ）、以下PlexBio社）と当社が共同で開発し、理化学品としてPlexBio社から既に発売されている専用の反応装置および検出装置と組み合わせて用いられます。高感度かつ同時多項目測定が可能なPlexBio社の π コード法（*1）技術を用いることで測定の手間を軽減し、新型コロナウイルスの感染対策において検出の必要性が高まっているアルファ株、ベータ株、ガンマ株等の変異株にみられる計10種の変異部位（*2）を同時に検出することが可能になりました。本同時検出システムは、理論上100種以上の変異部位まで対応可能であることから、新たな変異の発生や拡大に備え、当社はPlexBio社とともに引き続き研究用試薬の開発を進めてまいります。

当社は新型コロナウイルス感染症への対策を社会的責務と捉え、関係官庁や公的機関、国内外の研究機関の協力と支援のもと、様々な角度から感染症対策に貢献する取り組みを進めています。 π コード法のもつ高感度検出・同時多項目測定という特長を最大限に活用し、疫学研究の発展を通じて世界の人々のQOL向上に貢献し、真に社会に必要され「社会にとってかけがえのない存在となる企業」を目指してまいります。

以上

<新型コロナウイルスの変異遺伝子（部位）同時検出システム>



<検出用 研究試薬>



<反応装置>



<検出装置>

（*1） π コード法

PlexBio社が開発した π コード法は、表面にIDパターンを刻印した磁性マイクロディスクに抗体や遺伝子測定用のプローブを固定することで検査対象の種類を特定し、同時多項目測定を可能とした技術です。IntelliPlex™システムはこの π コード技術を蛍光法による測定技術と組み合わせることで、高感度と同時多項目測定を両立させています。蛍光法は測定対象に蛍光標識を付着させ、蛍光を測定することで高感度に対象を認識する一般に普及している技術ですが、原理的に多項目の測定は困難です。IntelliPlex™システムではディスク表面のIDパターン

を画像認識することで対象を特定することができるため、同時多項目測定が可能となります。

(*)新型コロナウイルス変異株の特徴的な10の変異部位。L452R, Y453F, E484K, E484Q, N501Y, D614G, P681H, K417N, K417T, del69/70

- ・「IntelliPlex」は PlexBio 社の商標です。
- ・PlexBio 社および IntelliPlex™システム、πコード技術の詳細は PlexBio 社サイト (<http://www.plexbio.com>) をご覧ください。

【ご参考：本件に関連する過去プレスリリース（当社ホームページ）】

- ・2021年4月19日「新型コロナウイルスの変異株検出システムの開発について」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/846/20210419_denka_covid19_pb.pdf
- ・2019年7月30日「台湾 PlexBio 社への資本参加ならびに業務提携強化に関するお知らせ」
https://www.denka.co.jp/storage/news/pdf/630/20190730_pb.pdf

【報道関係者からのお問い合わせ先】

コーポレートコミュニケーション部 電話：03-5290-5511

【お客様からのお問い合わせ先】

ライフイノベーション部門 先進検査事業開発部 電話：03-5290-5499